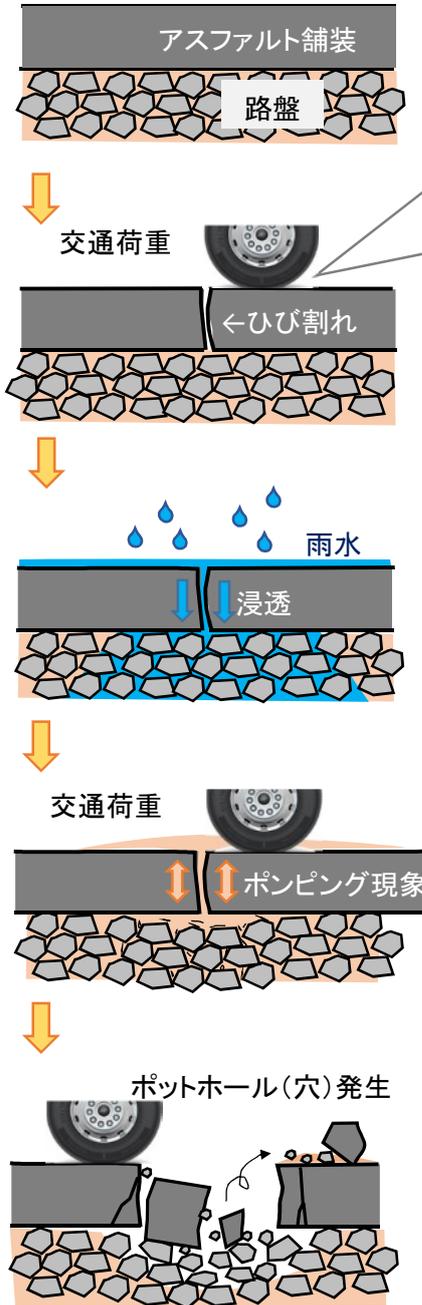


アスファルト舗装の劣化メカニズム

アスファルト舗装の劣化メカニズムとしては、複数の要因が挙げられ、それらが複合的に関与していると考えられる。主要要素としては、①水の存在 ②荷重 ③温度変化 の3つの作用である。

特に、経年劣化により生じたひび割れや舗装の継ぎ目などから浸透した「水」と、「交通荷重」が作用し、舗装の劣化、損傷が拡大することでポットホール(穴)が発生する。



この状態で表面処理工(クラックシーラ材注入)を実施



名刺クイズの答え:舗装の表面処理工(雨水の浸透を防ぐ)

◆経年劣化によるひび割れが発生

- ・交通荷重によるたわみ
- ・温度変化や紫外線による劣化

◆ひび割れ部から雨水が路盤に浸透

◆ポンピング現象により舗装版下に空洞が生じる

ポンピング現象:交通荷重がかかった際に、浸透した雨水と共に、路盤の細粒分が噴き出す現象

◆空洞があるため、交通荷重により舗装版の損傷が進行する

◆更に、ひび割れが亀の甲状に広がる

◆降雨時にタイヤと細分化した舗装版が密着し、舗装版が飛び出す

◆結果、ポットホール(穴)が生じる

破損部を取り除き、アスファルト合材を充填する。(パッチング)



大型車両の交通量が多い道路では、特に降雨後の走行に注意